

令和4年8月25日

まちづくり委員会資料

夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方について

建設緑政局

01 目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「動物公園」という。）は、昭和25（1950）年に加瀬山の豊かな緑を活かした公園として開設し、その後、本市が政令指定都市になった昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる市内唯一の動物公園として、現在も市民や地域に愛され続けています。**平成30（2018）年3月に策定した「夢見ヶ崎動物公園基本計画」（以下、「基本計画」という。）に基づき、事業を進めてきましたが、基本計画策定後、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会変容や脱炭素社会の実現に向けた取組、民間事業者等による多様な利活用ニーズの高まりなど、社会環境に大きな変化が見られたことから、今回、基本計画に示した取組の具体化に向けて、「夢見ヶ崎動物公園の再整備の基本的な考え方」を整理します。**

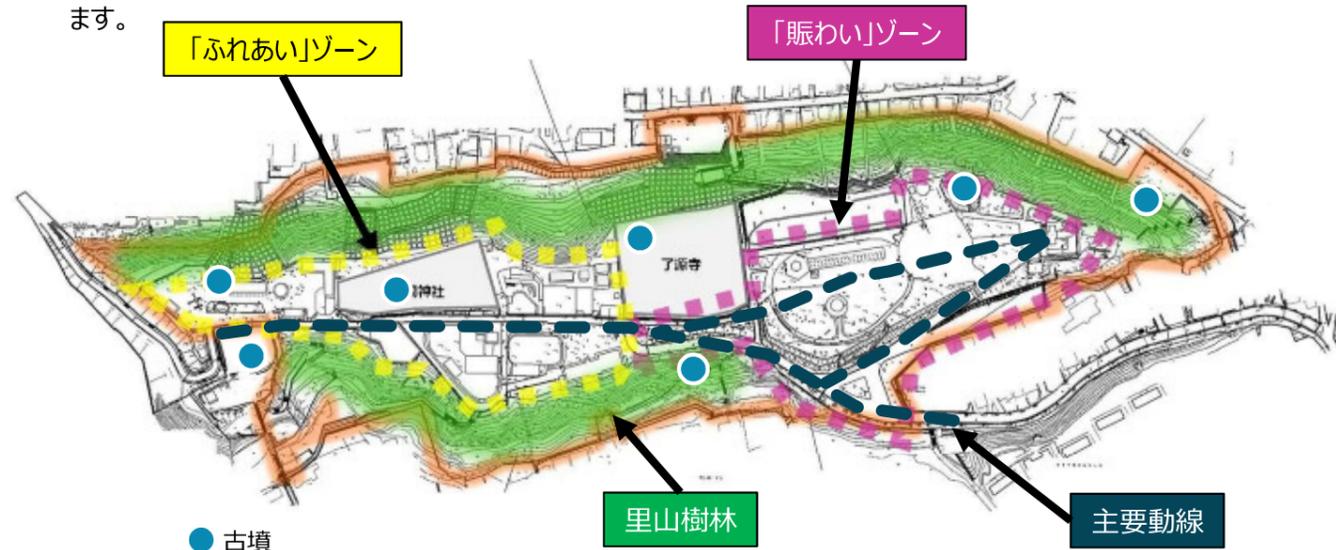
02 夢見ヶ崎動物公園を取り巻く状況等

基本計画で整理した動物公園の現状等のうち、再整備に係る内容について、再整理します。

(1) 再整備に係る動物公園の現状

①ゾーニング・施設状況

- 動物公園は、小高い丘の上に立地し、園内の一部に民地（寺社）が存在しています。
- 動物公園内の**主要動線の一部は公道**であり、車両等の通行があります。
- 動物公園内は、「ふれあいゾーン（動物園・遊具等）」と「賑わいゾーン（広場等）」に区分され、複合機能を有しています。
- 動物の飼育・展示の開始から**40年以上経過**し、動物舎の老朽化が進んでおり、**大規模な修繕が必要**となっています。



②来園者の特性（アンケート調査等より）

- 年度別来園者の状況を見ると、**平成元（1989）年をピークに減少傾向**にあり、近年は**年間約20万人前後で推移**しています。（図1）
- 月別来園者の状況を見ると、外出に適した気候で、イベントが開催される春季、秋季は来園者が多い傾向にありますが、夏季の来園者は少ない傾向にあります。（図2）

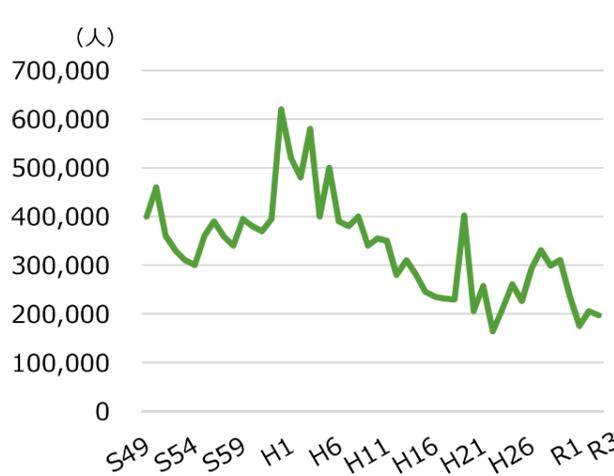


図1 年度別来園者の推移

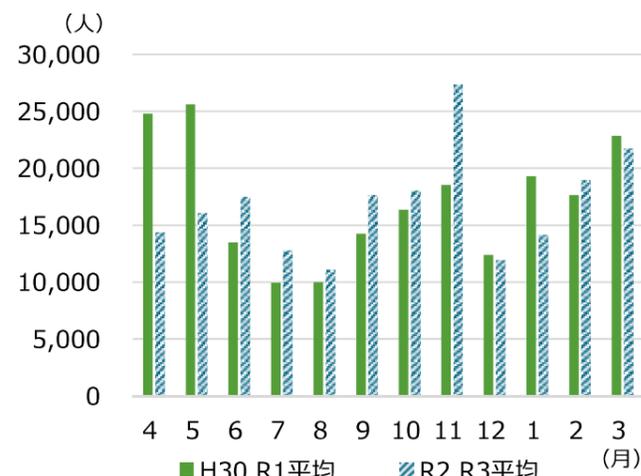


図2 月別来園者数

- グループ人数を見ると、複数人での来訪が8割以上を占めており、**乳幼児連れのファミリー層が全体の5割以上**になっています。（図3）
- 来園回数を見ると、3回以上の来園者が7割以上おり、**多くはリピーターで、日常的に利用している**ことが想定されます。（図4）
- 居住地を見ると、近隣区（幸区、中原区）を居住地としている人が約4割を占めています。（図5）

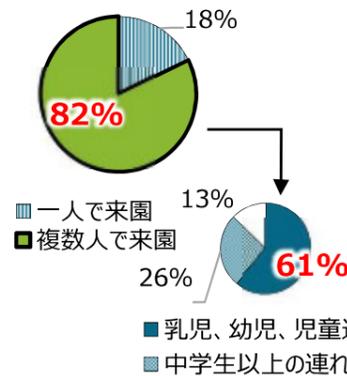


図3 来園時人数と同伴者の年齢

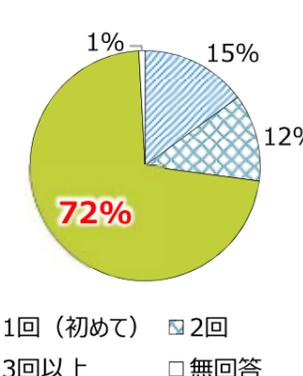


図4 来園回数

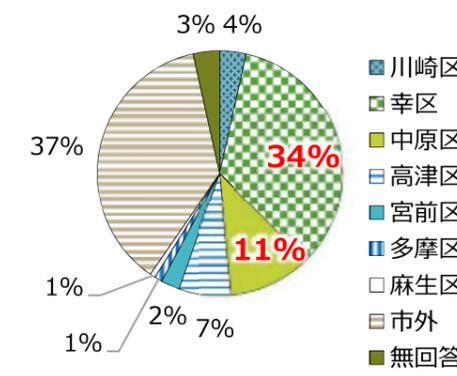


図5 来園者居住地

- 来園時交通手段を見ると、徒歩や自転車が約5割、自家用車が約4割となっており、徒歩圏や自転車圏の来園者が多いことがわかります。（図6）
- 滞在時間を見ると、2時間以内とした来園者が約8割を占めており、**比較的短時間の滞在**となっています。（図7）
- 動物公園における展示動物と公園の満足度を見ると、満足と回答した割合がそれぞれ4割、5割を占めており、**展示動物に比べて公園満足度が若干高**なっています。（図8）

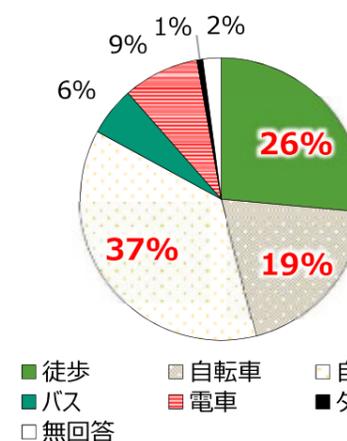


図6 交通手段

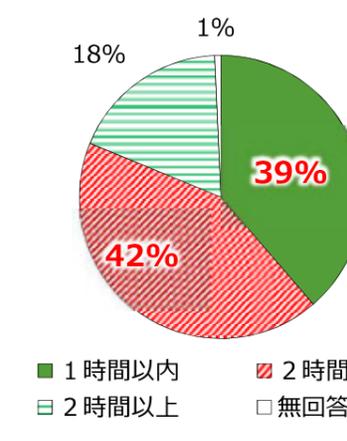


図7 滞在時間

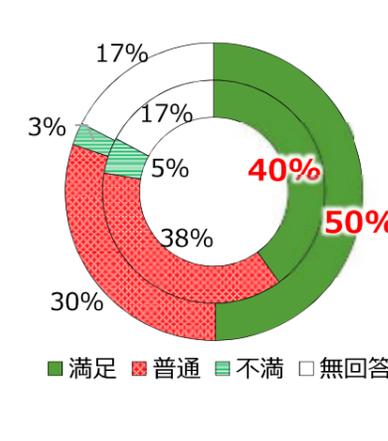


図8 展示動物満足度（内円）と公園満足度（外円）

③来園者が求める機能の特性（アンケート調査より）

- ・求める機能を見ると、「売店・自販機」といった**滞在時のサービス向上に関する機能**に加え、「休憩室・授乳室」といった**アメニティ機能**、「動物に関する展示」といった**動物園本来の機能の向上**が求められています。（図9）
- ・実施してほしいプログラムとしては、**えさやりや動物とのふれあいといった体験型プログラム**に加え、バックヤードツアーや動物ガイドツアーなどもあげられています。（図10）
- ・動物公園の**良いところ**として、**入園無料**・広場や遊び場があること・年中無休・**好きな動物がいること**などもあげられています。
- ・コロナ禍以前は、近隣の小学校等における**環境学習の場**として利用されており、年間に約1,500人に活用されていました。

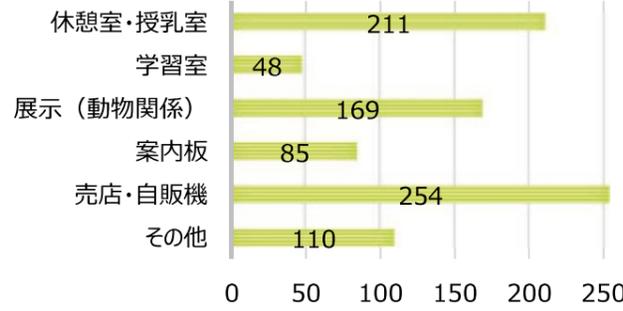


図9 設置・充実してほしい機能



図10 実施してほしいプログラム



環境学習

④動物の飼育・展示状況（令和4（2022）年7月末時点）

- ・本市が政令指定都市となった昭和47（1972）年11月に、公園の一角に動物コーナー（シカ舎、サル舎、小鳥舎 9種71点）を設置しました。
- ・昭和49（1974）年4月、夢見ヶ崎動物公園に改称し、以降、限られた敷地面積等立地上の制約を抱えながらも**市民が希少な動物を観覧できるよう**、シセンレッサーパンダ、ハートマンヤマシマウマ、フンボルトペンギンなどの**飼育展示の充実を図ってきました**。
- ・一方、希少野生動物の保全及び展示を継続していくうえで、飼育している**一部の動物種においては、高齢化や近親交配が進むなどの課題**が生じています。

種類		主な飼育動物
哺乳類	24種 154点	シセンレッサーパンダ、ハートマンヤマシマウマ
鳥類	23種 74点	フンボルトペンギン、インドクジャク
爬虫類	10種 101点	アルダブラゾウガメ
合計	57種 329点	—



シセンレッサーパンダ



ハートマンヤマシマウマ



フンボルトペンギン



アルダブラゾウガメ



飼育動物展示位置

⑤自然・歴史・文化

- ・動物公園のある加瀬山は、標高35mの丘陵地に立地し、市街地に囲まれた**幸区唯一のまとまった自然林**を有しています。
- ・**加瀬山の緑は**、主にコナラ・ヤマザクラ等の落葉広葉樹林、シラカシ・スダジイ等の常緑広葉樹林により構成され、樹林地の置かれた自然的条件・社会的条件等を評価した「**緑地総合評価**」において、優先的に保全を図るべき**Aランクに位置づけ**られています。
- ・動物公園は、幸区市民健康の森として位置づけられており、豊かな自然における活動を通して、**地域住民のコミュニティ形成の場**になっています。
- ・加瀬山やその周辺では**多くの古墳が築かれ、加瀬台古墳群と呼ばれています**。加瀬山の西端にあった白山古墳周辺から昭和17（1942）年に出土した壺は、「**秋草文壺**」として**国宝に指定**されています。
- ・室町時代の武将である太田道灌が、築城の場所を探しにこの地を訪れており、「**夢見ヶ崎**」という地名は、**太田道灌の見た夢に由来**していると言われています。
- ・昭和35（1960）年に除幕式が行われた慰霊塔には、明治時代から第二次世界大戦終結にわたる戦没・戦災死者が合祀されています。



加瀬山の自然的環境



3号古墳

(2) まとめ

- ・動物公園は、幸区唯一のまとまった自然環境を活用した公園ですが、開園から40年以上経過した動物展示機能を含め**公園全体の施設の老朽化に適切に対応**する必要があります。
- ・来園者は、乳幼児連れのファミリー層が多いこと、多くはリピーターとなっていること、近隣に居住する方が多いことなどの特徴があり、**再整備に向けては利用者特性を明確にしたうえで検討**する必要があります。
- ・利用者アンケートによると、「休憩室・授乳室」などのアメニティ機能のほか、滞在時のサービス向上機能、動物園としての機能の向上が求められており、現状でも短い滞在時間の来園者が多いことから、**長時間滞在を促す利便施設の整備、体験プログラム等の実施**を進めていく必要があります。
- ・動物公園は、動物観覧の場であるほか、太田道灌の伝承の地、古墳等の埋蔵文化財包蔵地であることから、世代間共有に向け、土地の記憶としての**歴史・文化の継承**や**環境学習機能を検討**する必要があります。
- ・希少野生動物の保存及び展示を継続していくためには、動物種、個体数の適正化など**動物公園のあり方について検討**を進める必要があります。



秋草文壺



太田道灌碑



熊野神社

03 夢見ヶ崎動物公園基本計画（平成30（2018）年3月）と策定以降の取組

基本計画で掲げた目指すべき将来像、基本コンセプトを再確認するとともに、4つの基本方針に係る策定後の取組状況を確認し、今後の取組の考え方を整理します。

●目指すべき将来像

わくわく、ふれあい、みんなで作る動物公園

●基本コンセプト

夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしながら、地域コミュニティの核として、わくわくでき、いきものとふれあえる場を、多様な主体が活用することにより、魅力と賑わいのある持続可能な動物公園を目指します。

●4つの基本方針と今後の取組の考え方

基本方針①施設の計画的なリニューアルに合わせた展示の工夫や園内の利便性・快適性の向上

策定後の主な取組 動物公園周辺で活動する方たちや地域の方たちなどからなる「ゆめみらい交流会」におけるワークショップの開催などを通じて、管理事務所や東側広場などの施設整備に必要な機能を話し合いました。



ゆめみらい交流会（H30）

意見の一例

- イベントやワークショップができる空間
- 動物を見ながらゆっくり座れる
- 加瀬山の歴史を学べる場
- 雨がしのげて学べる空間
- 車イスでも利用しやすい園内
- カフェ・レストランなどの飲食機能

ゆめみらい交流会実績

年度	回数	参加人数 ※累計
H30	2回	75名(34団体)
R1	2回	53名(30団体)
R2	2回	21名(14団体) うち1回は書面開催
R3	1回	書面開催

施設整備に関して、周辺で活動する方や地域の方などと意見交換を行ってまいりましたが、施設更新に向けては、社会変容を踏まえた一般来園者のニーズを把握し取り組んでいきます。
来園者ニーズの把握には時間を要することが想定されることから、**授乳室等の必要最低限の施設整備を進めるとともに、再整備に向けた検討の深度化を図っていきます。**

基本方針②公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの充実

策定後の主な取組 楽しみながら動物について学べる機会を創出するために、ボランティアと連携して、春と秋の年2回、実際に動物とふれあえる「動物園まつり」を開催しています。また、4月には飼育現場の裏側を見ることが出来る「飼育の日」、夏休みには動物の飼育を体験できる「サマースクール」等を開催しています。



動物園まつり（H30）



サマースクール（R1）

主なプログラム

春	・動物園まつり ・飼育の日
夏	・サマースクール ・動物愛護教室
秋	・動物園まつり
冬	・年賀状コンクール
通年	・環境学習（小学生） ・職場体験（中学・高校生） ・獣医実習（大学・専門学校生）

動物園まつりやサマースクール等、多くの学習プログラムを実施してきたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、近年は開催できていません。**社会変容を踏まえた新たなプログラム**や、動物福祉の観点を踏まえた**ふれあいプログラムを検討・実施していきます。**

基本方針③魅力を伝える効果的な情報発信力の強化

策定後の主な取組 ホームページやSNSを活用し、約3か月に1回、情報誌・ゆめみにゆーすを発行するほか、Facebookにおいて動物の情報を日常的に発信しています。



ゆめみにゆーす（R4）



Facebookを用いた動物の情報発信（R4）

ホームページやSNSを活用して一定の情報発信を行っています。今後は**ICT技術の進展等を踏まえながら**、情報発信回数の増加や活用方法の工夫、内容の充実化を検討するなど、**より効果的な情報発信を進めていきます。**

基本方針④多様な主体との連携の充実による賑わいの創出や収益性の向上に向けた取組及び持続可能なマネジメントの構築

策定後の主な取組 不足している飲食サービスの提供による来園者の満足度向上を目指し、日吉商店街と連携し「ゆめみ車マルシェ」を開催しています。また、神奈川県野生動物リハビリテーターと連携し、傷ついた野生動物の保護に取り組んでいます。さらに、持続可能なマネジメントの仕組みの構築を見据えた民間活力の導入に向けて、サウンディング調査や指定管理者候補企業との協議を行ってきました。



ゆめみ車マルシェ（H30）

ゆめみ車マルシェ 実績

H30	3月下旬～5月中旬の 土日祝 計22回（約3店/日）
R1	9月下旬～11月下旬の 土日祝 計17回（約3店/日）
R2	10月上旬～11月下旬の 土日祝 計19回（約4店/日）

※R3は新型コロナウイルス感染症の拡大により未開催



野生動物の保護（R1）

地域の商店街と連携したキッチンカー等による飲食サービスの提供といった、多様な主体との連携の充実による**賑わい創出に向けた取組は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響をはじめとする社会変容を踏まえ**、実施していきます。
また、収益性の向上や持続可能なマネジメントの構築に向け、動物園における**経営的な視点も踏まえた民間活力の導入を検討していきます。**

04 事業を取り巻く状況変化

平成30（2018）年3月の基本計画策定後、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う**社会変容や多様なニーズの高まりなど、様々な社会環境変化を踏まえた関連計画等が策定**されています。

（1）民間活用（川崎版PPP）推進方針（令和2（2020）年）

市民サービスの提供等における本市が目指す民間活用の考え方や取組の基本的な方針等を整理し、効率的・効果的な市民サービスの提供とそのサービスの質の向上の実現につなげることを目的に策定しました。

●今後の民間との連携に向けて必要な視点

【視点1】多様な主体との連携

- ・地域課題の解決や豊かな市民生活の実現

【視点2】資産マネジメントの考え方を踏まえた民間活用

- ・**既存施設の多目的化や複合化を図り、市民サービスの向上と財政負担の抑制を実現**
- ・民間ならではの発想・アイデアにより**公有財産そのものをまちづくりや地域課題の解決等におけるシズとして活用**

●民間活用にあたっての基本姿勢

- ・率先して**民間をより最適な公共サービス実現の重要なパートナーとして再認識**



PPPプラットフォームセミナー（R1）

（2）新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（論点整理）（国土交通省・令和2（2020）年）

国土交通省は、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性を検討するため、新型コロナ危機の収束後も意識し、今後の都市のあり方の変化や都市政策について論点を整理しました。

これらの論点の一つとして公園緑地を含むオープンスペースについて、「三つの密」（密閉・密集・密接）を回避する観点、テレワークにより自宅近くで過ごす時間が増え、身近な憩い空間の重要性が再認識された中で、今後のあり方が示されています。

●緑とオープンスペースの重要性の再認識

- ・新型コロナ危機を契機とした**公園、広場などの屋外空間に対するニーズの高まり**
- ・オープンスペースの**利用形態の多様化への対応**

●多様なストック効果をより高める公園利用

- ・**水辺や広場と一体となった飲食・物販店等の官民連携による整備やイベント実施による賑わいの創出**

●デジタル技術を活用した都市サービスの提供

- ・公園内外のアクセスの改善に向けた無人バスやMaaSの取組の導入可能性検討



ラフティングボート体験会（多摩川、R3）

（3）パークマネジメント推進方針（令和3（2021）年）

公園緑地を取り巻く様々な状況の変化に柔軟に対応しながら、これまで以上に柔軟かつ多様な利活用を推進することを目的に、公園緑地の新たな価値の創出による質の向上とさらなる魅力向上を図るための基本的な考え方や取組の方向性を設定しました。

●基本的な考え方

【視点1】柔軟な利活用の促進と利用の多様化

- ・多様な利活用ニーズに対応した**公園緑地等の機能の拡大**
- ・地域住民が快適に利用できる**公園緑地の日常的な利用の仕組みの構築**

【視点2】利用者の視点・経営的な視点に立った維持管理・運営

- ・多様な管理運営手法の活用・導入による**持続可能な管理運営の仕組みの構築**

【視点3】柔軟な利活用と効率的な管理運営を見据えた公園づくり

- ・民間事業者等がもつ柔軟な発想や専門的なノウハウを活かした**特色のある魅力的な公園づくり**



Park-PFI事業の導入に向けた社会実験（橘公園「たちばなフェス」、R3）



民間企業と連携した公園整備（こすぎコアパーク、R3）

（4）資産マネジメント第3期実施方針（令和4（2022）年）

保有する様々な施設の最適な維持管理や活用等を行うことを目的に策定しました。

●取組全体の基本的な考え方

- ・長期的ビジョンの設定及び短期・中期・長期的視点からの取組の推進
おむね30年程度の長期的に目指すべき姿として「**必要な時期に、必要な規模の行政機能の提供**」を設定
- ・資産保有の最適化の重点的取組への位置づけ
施設の多目的化・複合化、転用等、市が保有する施設を有効に活用し対応することで、**10年間で公共建築物全体の床面積を基準から増やさない**ことを目指す
- ・「機能重視」の考え方に基づく取組
市民ニーズ等を把握した上で、その機能の整備を図る「**機能重視**」の考え方に基づく**施設配置を実施**

（5）川崎市地球温暖化対策推進基本計画（令和4（2022）年）

令和32（2050）年度の脱炭素社会の実現に向けた将来ビジョンと削減目標に加え、これらを達成するために必要な基本的方向と具体的な施策を設定しました。

●将来ビジョン

令和32（2050）年の市域の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す

●削減目標

令和12（2030）年度までに、市域の温室効果ガス排出量を平成25年度比で50%削減

●関連する基本的方向・施策

- Ⅴ 市役所自ら率先して脱炭素化にチャレンジしているまち
- 施策20 「**全ての市公共施設への再生可能エネルギー電力の導入**」
- 施策21 「**市公共施設の再エネ・省エネ・環境配慮の徹底**」



麻生区役所における木質化リノベーション（R3）

（6）近年の動物園の動向

これまで動物園は、レクリエーション施設として癒し・娯楽などの面のみが取り上げられることが多く見受けられましたが、生物多様性がわさき戦略（令和4（2022）年）の改定をはじめとした**生物多様性保全の重要性の高まり**とともに「レクリエーション」以外の役割についても目が向けられるようになり、**希少動物保全活動、地球環境保全活動などについても認識**されるようになりました。

また、国際組織「世界動物園水族館協会」が令和2（2020）年に「世界動物園水族館協会持続可能性戦略2020-2030」を発表し、環境保全を主導する重要な役割として動物園が位置づけられるなど、**SDGsへの積極的な貢献や持続可能な未来のために主導的な役割**を求められています。

このように、近年の国外も含めた動物展示における考え方は大きく変化しており、**飼育動物の幸福な暮らしを実現するための環境エンリッチメント※を重視した展示**が、世界各地で導入されています。

また、日本においても動物とのふれあいなどにより命の大切さを伝えることが、**動物園の重要な役割のひとつ**となっていますが、一方で、協会・加盟園館が連携して動物種ごとに「適正飼養ガイドライン」を策定するなど、**飼育動物の健全な暮らしを実現するための取組**や、コーナーの一部で動物が休憩できるスペースを設けるなどの**動物福祉の視点に立った手法**が検討されています。

※動物福祉の立場から、飼育動物の“幸福な暮らし”を実現するための具体的な方策や、動物が持つ野生本来の行動を発現できるような施設作りなど飼育環境を動物が自然でありのままの姿で行動することが出来る環境に向け改善すること



ふれあいプログラム及び動物展示の工夫（まかいの牧場）



動物展示の工夫（旭山動物園）

05 夢見ヶ崎動物公園再整備の方向性

(1) 再整備の基本的な考え方

【ポイント①】再整備に向けた検討を進めながら、魅力向上等の支障となっている一部施設の整備を行います

- 施設の老朽化が進行している中、現状の施設配置を基本として更新を進めるため、施設整備や園内環境の整備に関して、周辺で活動する方や地域の方などと意見交換を行ってきたものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い**社会環境**に大きな変化が見られたことから、**施設更新に向けては、これらを踏まえた一般来園者のニーズを把握する必要があります。**
- 社会変容等を踏まえた来園者ニーズの把握には時間を要することが想定されることから、**当面は基本計画で示した将来像やコンセプトに基づき**、休憩室・授乳室等の必要最低限の整備を進めるとともに、来園者ニーズを踏まえた**再整備に向けた検討**を進めます。

【ポイント①を踏まえた再整備の基本的な考え方】

- ファミリー層が安心して滞在でき、交流の場となる**休憩施設、衛生施設を充実**します。
- 多様な主体による活動や**学習プログラムに活用できる多目的空間を創出**します。
- 安全な公園利用と動物を身近に感じられる**観覧環境の創出**に向けて**公園施設を一部改修**します。
- 希少動物の保全など**生物多様性の観点**と、加瀬山の**文化・歴史を伝える環境学習の場**を提供します。
- ICTを活用し**、動物公園の魅力伝える情報をより効果的に発信します。
- 動物園経営の視点も踏まえた**民間活力の導入**を検討します。

【ポイント②】社会環境の変化に応じた再整備を進めます

- 新型コロナ危機を契機として、**緑とオープンスペースの重要性**等、身近な憩い空間の重要性が**再認識**されるとともに、令和32（2050）年の**脱炭素社会の実現**、公共施設の多目的化・複合化や市民ニーズに応じた**機能重視の考え方**に基づく効率的・効果的な活用、**動物福祉の視点に立った動物展示・飼育**及び動物園のSDGsへの積極的な貢献等が示されるなど、**今後の再整備等において考慮すべき社会環境の変化が生じています。**

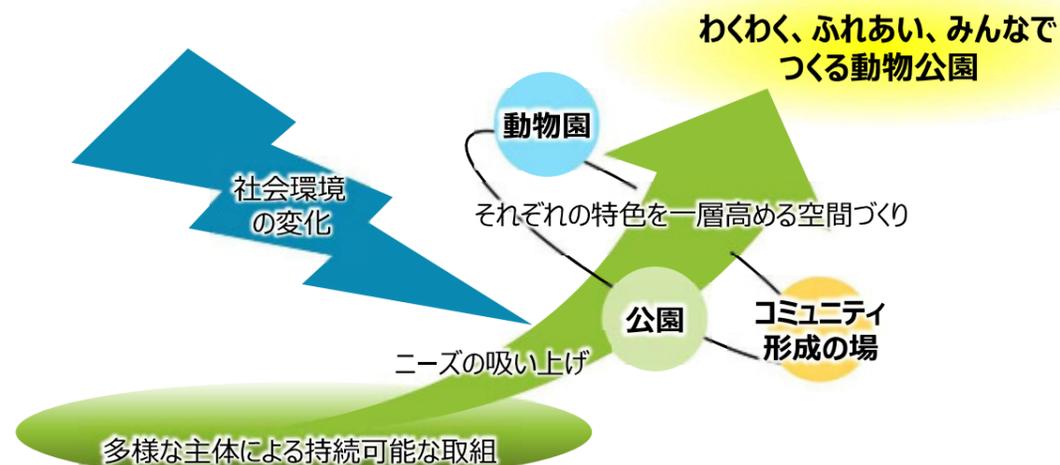
【ポイント②を踏まえた再整備の基本的な考え方】

- 交流、飲食、学習、物販等の**利用者利便施設の整備**により賑わいを創出します。
- 広場、公園等**オープンスペースの利用形態の多様化**へ対応します。
- 持続可能な**管理運営の仕組み**を構築します。
- 施設の多目的化、複合化**及び市民ニーズに応じた**機能重視の考え方**による**施設整備**を進めます。
- 再生可能エネルギー電力の導入・省エネ・環境配慮**を徹底します。
- 動物福祉に配慮した飼育環境の改善**や**展示空間を再構築**します。

(2) 動物公園全体の再整備計画（イメージ）

夢見ヶ崎動物公園は、加瀬山の豊かな緑を舞台に、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる市内唯一の動物公園として市民や地域に愛され続けています。一方で、開園から40年以上が経過していることで飼育展示施設などの老朽化が進み、魅力向上や賑わいの創出にあたって支障となっていることから、早急な再整備が求められています。

そこで、今回改めてとりまとめた「**再整備の基本的な考え方**」に基づき、目指すべき将来像である**わくわく、ふれあい、みんなで作る動物公園の実現**に向け、地域住民やボランティア等の多様な主体と連携した持続可能な取組を着実に進めるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大による社会変容を始めとした**社会環境の変化を的確に捉え**、動物園、公園、コミュニティ形成の場など、**それぞれの特色をより一層高める動物公園全体の再整備を推進**します。



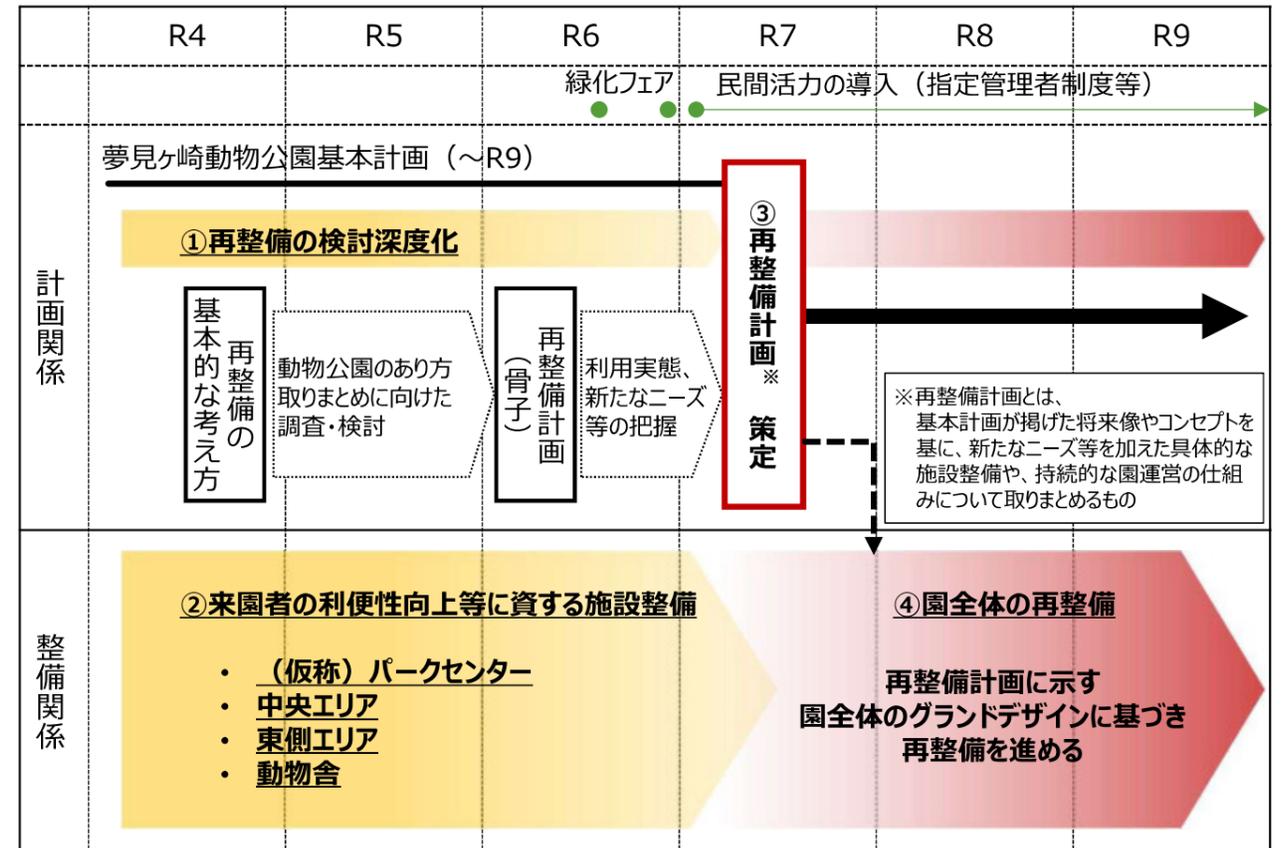
06 再整備等の取組スケジュール

再整備は、最適な維持管理や活用の視点、動物福祉の視点などを踏まえた**利便施設や動物舎、園路等の整備・改修**なども含めた**動物公園全体の最適化**に向けた取組であり、取組には多様化している利用者ニーズ等を的確に捉えることが重要となります。

一方、生活スタイルや社会環境については、昨今極めて激しく変化しており、いまだ今後のトレンドが見通しにくい状況であるとともに、的確な利用者ニーズや真に必要な機能等の把握のためには、新たな来園者等呼び込むきっかけとなる取組も必要となります。

そこで、取組をステップ1、2の**2段階で実施**することとし、**ステップ1**では①**再整備の検討深度化**を図るとともに、**(仮称)パークセンター**などの一定の来園者の**利便性向上**に資する②**最低限必要な施設整備**を行い、**ステップ2**ではステップ1における取組を基に、利用者ニーズや**動物公園のあり方**等を踏まえた③**再整備計画**を策定するとともに、整備計画に基づく④**園全体の再整備**を進めます。

(1) スケジュール



(2) ステップ1の主な整備内容

項目	整備内容（●新設、◆改良）	整備目的・効果	
(仮称)パークセンター	●多目的室、休憩スペース ●授乳室、多機能トイレ ●事務所機能	・教育普及やプログラム等のソフト施策の実施による動物公園の魅力の向上 ・来園者サービスの向上 ・老朽化への対応	
中央エリア	動線	◆動物舎集積部分の整備 ●車両迂回路	・公共空間を活用したイベントスペース等の確保 ・安心して見学できる機会の創出
	動物舎	◆老朽化した動物舎の一部補修 ◆カラーリニューアル	・シセンレッサーパンダ、ハートマンヤマシマウマ等の観覧のしやすさや、動物展示の魅力の向上
東側エリア	◆トイレリニューアル ◆広場内園路の不陸整正	・来園者サービスの向上 ・安心して賑わいの場を楽しめる空間づくり	

利用者利便施設 | (仮称) パークセンター新設

管理事務所機能に**多目的室**や**授乳室**、**多機能トイレ**等を備えた(仮称) **パークセンターの新設**を行い、快適な空間を提供する。あわせて、**既存管理事務所の撤去**を行う。



中央エリア | 車両迂回路新設

ふれあい等の多様なイベントにおいて**柔軟に利活用**できる空間と歩行者の回遊性・安全性の確保を目的として、既存の園路線形を活かした**歩行者空間を創出**するため、**歩行者と車両通行を分離した車両迂回路**を新設する。

東側エリア | トイレリニューアル

安心して賑わいの場を楽しめる空間づくりに向けて、間口が狭く、和便器のみのトイレを見直し、衛生面を考慮した**誰もが快適に使用できるトイレ**にリニューアルする。

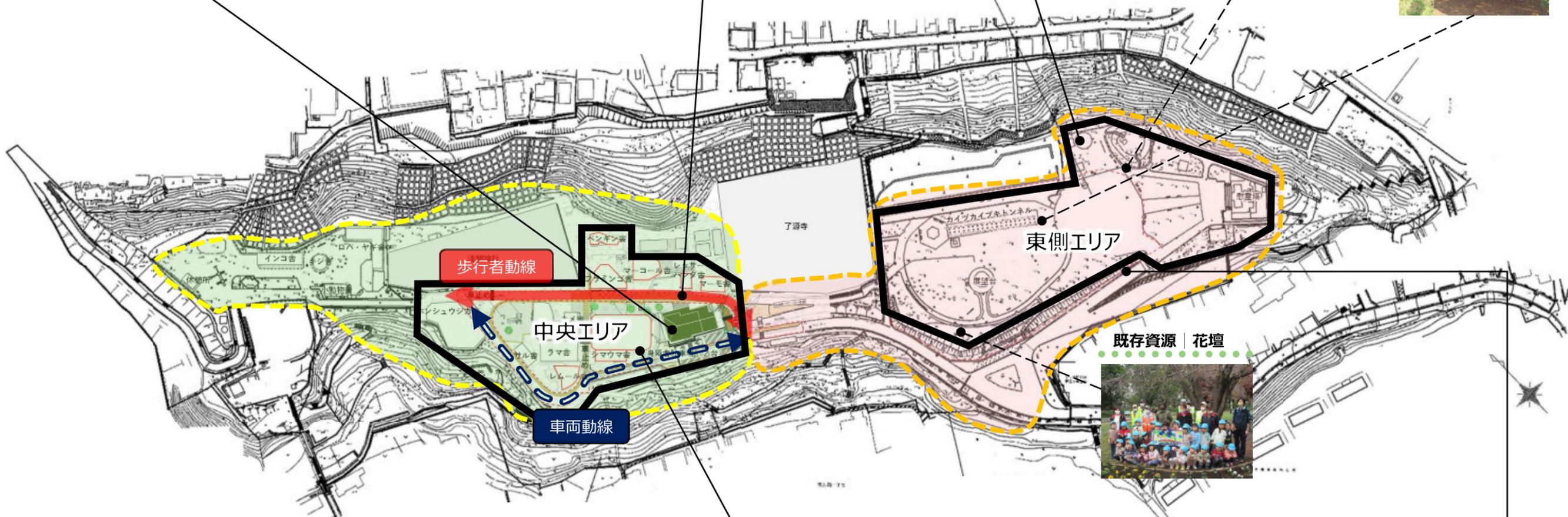


※現況写真

既存資源 | 太田道灌碑



既存資源 | カイツカイブキのトンネル



「ふれあい」ゾーン

主に、動物展示を中心とした動物とのふれあい、環境学習などを行うゾーン

「賑わい」ゾーン

主に、イベント、飲食等のサービス、自然を活かした遊びなどを行うゾーン

中央エリア (動物舎等) | 動物舎一部補修・カラーリニューアル

・既存檻および手すりの老朽化に伴う**一部補修及びカラーリニューアル**



・子どもや車椅子利用者の**観覧のしやすさに配慮**



歩行者動線における動物観覧イメージ

東側エリア | 東側広場内園路の不陸整正

市民協働で行っている花壇に加え、桜の植樹空間やカイツカイブキのトンネル等の**魅力的な資源を活用**するための動線を補修する。

01 (仮称) パークセンター整備を進めるにあたり

ステップ1として整備を計画している(仮称)パークセンターについては、世界的な社会環境の急激な変化や市民ニーズの一層の多様化などを踏まえ、**よりコンパクトな施設への見直しや各諸室の諸元の精査**等を行いました。具体的には、既存の利用者利便施設は、築42年が経過し、建築物の老朽化が進行していることや、市民や来園者の利便性の低下などの**喫緊の課題に対応**するため、建て替えに向けた**設計等の事業を推進**してきましたが、当該施設は来園者にとって重要な施設であることから、将来の施設利用に向けて、**真に必要な機能や規模について、改めて精査・検討**するとともに、動物公園の「**再整備の基本的な考え方**」のとりまとめに合わせて、オープンで多様な使われ方ができる**フレキシブルな諸室**や**公園との空間的な連続性**などの一層の魅力や賑わいが高まる機能を盛り込んだ設計として改めます。

02 (仮称) パークセンターの役割等

前述までの整理のとおり、来園者は幼児連れのファミリー層が多く、**休憩室・授乳室の設置や動物園に関する展示機能の向上が求められる**とともに、小学校等における環境学習の場としても利用されています。また、地域特性から、地域の歴史・文化等の情報発信の場としての活用や、「加瀬山の会」や「ゆめみらい交流会」等の**活動の場**としても期待されています。そして、当該動物公園は年間に約20万人の来園者があり、**適切な運営・維持管理及び快適な利用者サービスを提供**する必要があります。そのような中施設整備を取り巻く環境としては、地球環境保護の観点からは、**一層の環境配慮への徹底や、資産マネジメント**、民間活用の観点からは、市民ニーズを適切に把握し、**公民の連携により、効率的、効果的な施設マネジメントが求められています**。上記を踏まえ、利用及び管理の観点から、施設の本質的な役割は以下のとおりです。

- ・来園者のニーズに応じたサービスを提供する役割
- ・適切な園内管理業務の中心的・拠点的な役割
- ・市民活動・交流の場としての役割

03 配置・動線計画

既存施設は、「ふれあいゾーン」と「賑わいゾーン」の中間地点に位置しています。今後についても、来園者へのサービス提供や管理にあたっては、利用者アクセス、管理動線上、望ましいと考えられる、**現在と同位置に配置**します。



04 施設整備のコンセプト

- 施設の役割や社会・環境の状況等を踏まえ、施設整備のコンセプトを以下のように考えます。
- ・当該動物公園の**玄関口・ランドマーク**的な施設と位置付けます。
 - ・市民のコミュニティ形成、学習、休憩、相談、展示等、**オープンで多様な使われ方**を誘導する諸室配置とします。
 - ・従事する職員が**働きやすく無駄のない執務スペース**とします。
 - ・施設の**長寿命化**を図るため、**空間の可変性**があり、維持管理しやすい施設とします。
 - ・木の温かみの享受や脱炭素の取組に資する**木質化**を積極的に図ります。
 - ・太陽光パネル、LED等、再生可能エネルギー電力の導入及び省エネ等、**環境への配慮を徹底**します。
 - ・古墳や太田道灌所縁の地及び埋蔵文化財を有するエリアとして**歴史・文化**を伝承する場とします。



公園の玄関口的な位置付けのテラススペースで賑わい創出が可能
 学校等の学習室としての利用やイベント等の開催が可能な休憩スペースや多目的室は、柱や梁が見える開放的な木質化された空間
 講演会や動物・歴史・文化に関する多様な展示等が可能な空間を提供

05 施設機能

- (仮称)パークセンターの役割等や施設整備のコンセプトから求められる機能は以下のとおりです。
- ・**交流機能**：市民活動の場、児童・園児・親子が体験を通して**いろいろなつながりを生む**空間機能
 - ・**休憩機能**：来園者の園内回遊の際の**一時休憩の場として活用**される空間機能
 - ・**学習機能**：動物・歴史・文化に関する**多様な展示や講演会を行う場として活用**される空間機能
 - ・**事務機能**：園内管理に伴う**事務作業等の場として活用**される空間機能

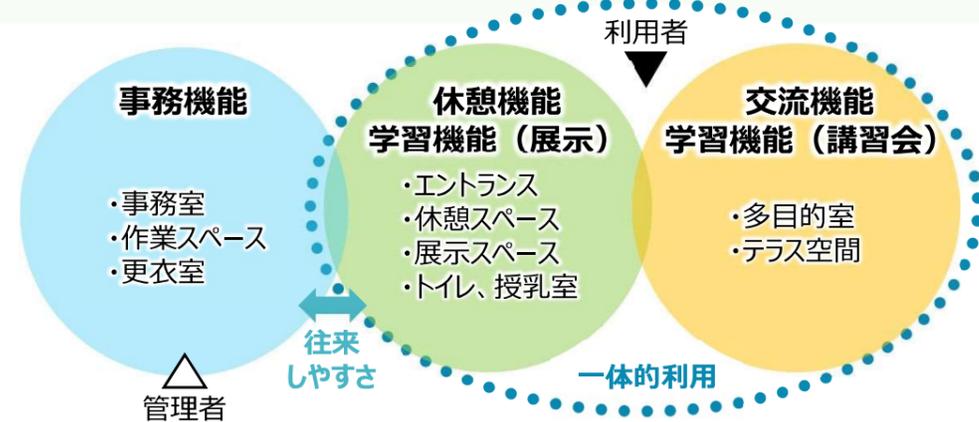
06 諸室と必要面積

来園者の利用スペースを拡充するとともに、**事務スペースを効率化**することで、施設規模は**既存施設と同程度**とします。また、施設機能を具体化した必要諸室を以下のとおりとします。

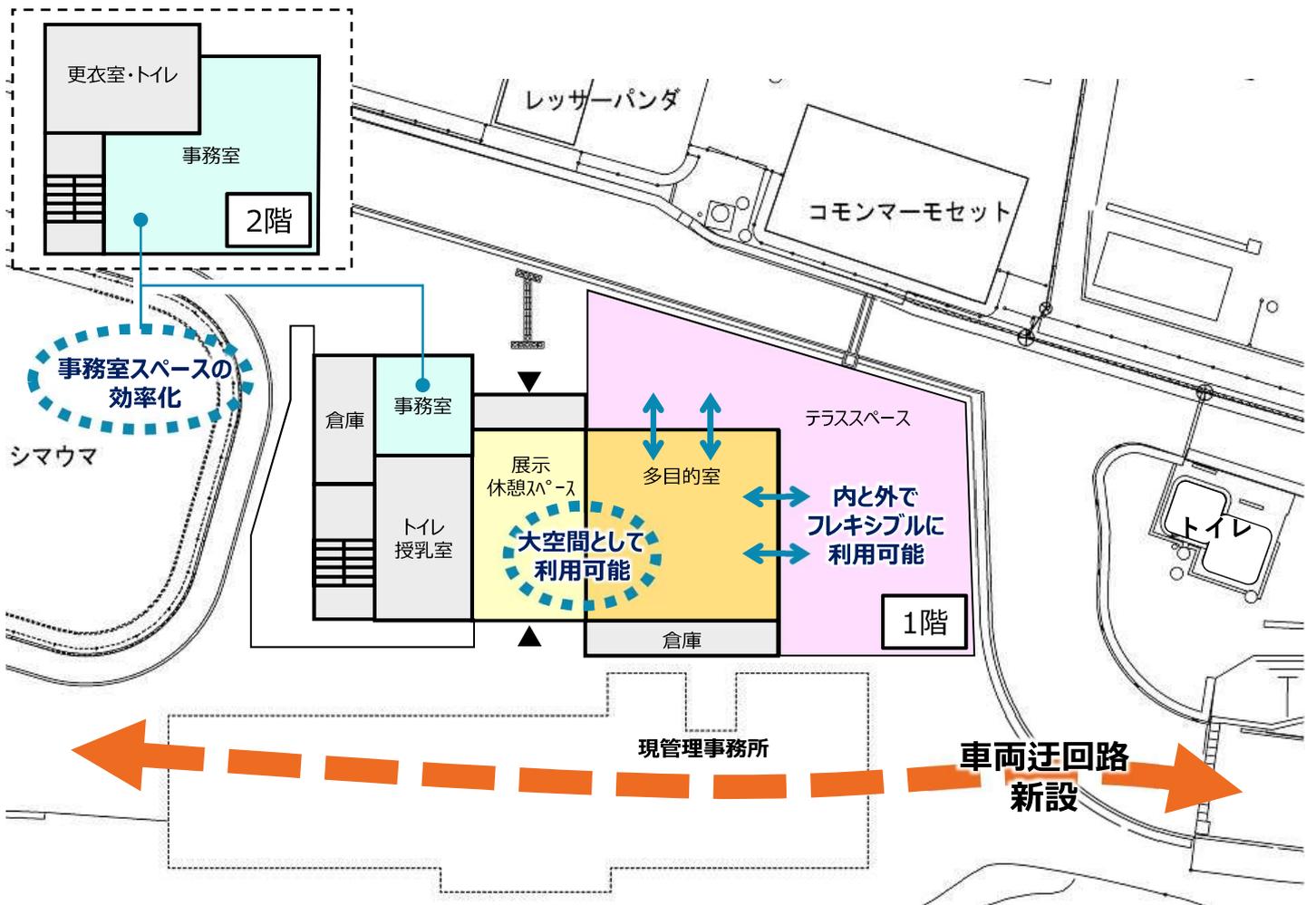
諸室	面積 (㎡)	諸元又は面積算定の根拠	備考
多目的室	約70	小学校2クラス分(70人)を想定。(70人×1㎡=70㎡) ボランティア団体の定例会議など15人程度が多目的室を利用35㎡/室を確保。(15人程度×約2.5㎡=35㎡程度) (JOIFA「オフィス環境スタンダード」より)	2室分割可
休憩スペース	約20	10人程度の利用を想定	
展示スペース	約20	既存展示物スペース程度	
授乳室	適宜	1室	
利用者トイレ	約40	男・女・多機能トイレ1室	
事務室	約80	現職員分デスクを配置 その他打合せスペース	
その他	適宜	エントランススペース・更衣室・トイレ・廊下・階段	

07 施設基本ゾーニング

休憩機能、交流機能、学習機能の空間をフレキシブルに活用でき、事務機能を適切に分離したゾーニングを構築します。



01 平面イメージ



02 (仮称) パークセンター機能概要

木造2階建 延床面積約380㎡

- 1階： 多目的室 1・2、展示・休憩スペース、職員事務室（受付機能含）、トイレ、授乳室、倉庫 他
- 2階： 職員事務室、更衣室、トイレ 他

03 (仮称) パークセンター整備スケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
試掘調査	設計	新設工事	
		● パークセンターオープン	
		旧管理事務所解体工事	
		緑化フェア	緑化フェア
			中央エリア車両迂回路新設